

第2回相原駅東口まちづくり検討会 会議要旨

場 所：堺市民センター・ホール

日 時：2014年1月29日(水曜日) 19時00分～21時00分

出席者：地 権 者 等：21名

町 田 市：地区街づくり課 吉原担当課長、加藤係長、高梨主任、森本主事
コンサルタント：(株)計画技術研究所 須永、宮本、阿部

<次第>

1. 開会
2. 報告
 - (1) 第1回のふりかえり (資料1)
 - (2) 町田街道立体化後の歩道 (地下部) における車いすなどの利用について (資料2)
3. 本日の検討内容について
 - (1) 東口アクセス路の検討 (資料3)
4. 次回日程等のお知らせ

<配布資料>

- | | |
|--------|---------------------------------------------------------|
| 資 料 1 | 第1回相原駅東口まちづくり検討会 会議要旨 |
| 資 料 2 | 町田街道立体化後の歩道 (地下部) における車いすなどの利用について |
| 資 料 3 | 東口アクセス路検討の前提条件 |
| 参考資料 1 | 平成24年度相原駅周辺のまちづくりに関するアンケート結果 |
| 参考資料 2 | 町田市景観計画による規制誘導
都市計画マスタープラン (相原地域) パンフレット
意見・質問記入書 |

1. 開会

2. 報告

(1) 第1回のふりかえり（資料1）

第1回の議事内容と検討会の主な意見について説明しました。

(2) 町田街道立体化後の歩道（地下部）における車いすなどの利用について（資料2）

第1回で出された町田街道立体交差化後の歩道のバリアフリーに関するご質問について、市から回答しました。

（第1回検討会での質問内容）

町田街道の立体交差化事業に伴い、歩道もアンダーパスになるが、東西方向の車いす等の移動についてもバリアフリーの観点から検討すべきではないか。エレベーターが必要ではないか。

（市の答え） 立体交差後の歩道勾配について、立体交差模型を使い説明しました。新たに整備される歩道の勾配は5%で、高低差75センチメートル毎に踊り場（平らな部分）も設けられ、バリアフリーの基準を満たしています。

5%の勾配とは、10メートル進んで50センチメートル上がる（下がる）傾きのことです。

(3) 報告内容等に関するご質問

大戸踏切際への階段設置について

（意見） 資料2に記載されているJR横浜線沿いの地上と町田街道立体化後の歩道（地下部）を結ぶ階段は誰が検討しているのか。

（市の答え） 東京都で検討しています。

西口検討会の検討内容について

（意見） 次回は西口検討会の意見を聞かせてほしい。

（意見・質問記入書でのご意見）

3. 本日の検討内容について（資料3）

東口の道路交通に関する現況と町田街道立体交差化後の課題を踏まえ、市の東口アクセス路の基本的な考え方について説明しました。

○東口の道路交通に関する現況と町田街道立体交差化後の課題

町田街道の立体交差化に伴い、町田街道から駅東口方面のアクセス方法が変わるため、新たなアクセス道路が必要となります。

○東口アクセス路の基本的な考え方について

「整備ルートの基本的な考え方」、「道路の幅員の根拠となる断面構成イメージ」について説明しました。

「整備ルートの基本的な考え方」については、将来の土地利用を考慮した上で、利用しやすい道路整備を行うことを提案しました。

〈整備ルートの基本的な考え方〉

(1) JR横浜線にできるだけ近い位置で町田街道に接続します。

- ・ JR横浜線にできるだけ近い位置で町田街道に接続することが地元にとって利用しやすいと考えています。

(2) 現況道路を活かします。

- ・ 駅東口の将来の土地利用を考えると現況道路を活かした整備が良いと考えています。

〈道路幅員の基本的な考え方〉

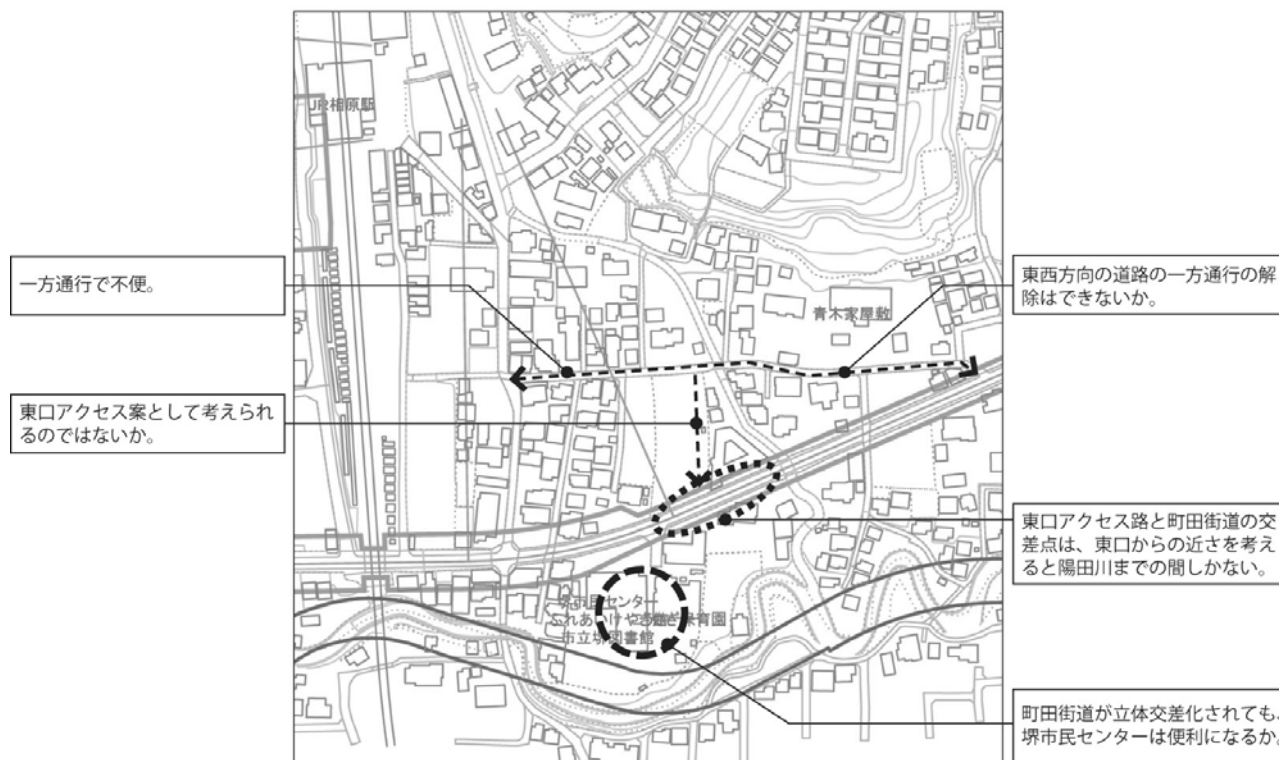
- ・ 東口と町田街道を結ぶ地域の骨格的な道路になることから、自動車が安全にすれ違うには、2車線が必要と考えています。
- ・ 高齢者、子ども、車いす利用者等の安全を確保するために両側へ歩道が必要と考えています。
- ・ 歩道は、車いすや傘を差した人がすれ違うことができる幅が必要と考えています。

○東口アクセス路に関する検討

資料3を踏まえ、3つのグループに分かれて、グループごとに議論しました。最後に各グループの議論の内容について発表し、意見を参加者全員で共有しました。

各グループの主な意見は以下のとおりです。

〈グループ1の主なご意見〉



（上記以外の主なご意見）

○東口アクセス路の必要性について

- ・自動車で駅東口から町田街道や相模原方面に行く道路が必要である。
- ・町田街道立体化後も今の利便性と同等にしてほしい。
- ・町田街道立体化により非常に生活が不便になる。
- ・町田街道立体化により町田街道北側が不便になる。

○東口アクセス路のルートについて

- ・陽田川に道路を整備するなら建物がかからない。
- ・陽田川は、今は川があるだけで水面に降りられない。
- ・陽田川にはカワセミがいるので、完全にふさぐのはどうか。

○東口アクセス路の幅員について

- ・普通的生活道路があれば良い。
- ・幅員10m位でなければ、相原駅周辺は発展しない。しかし、セットバックが必要になる。
- ・車道と歩道を分離する必要がある。
- ・街路樹は必要ない。

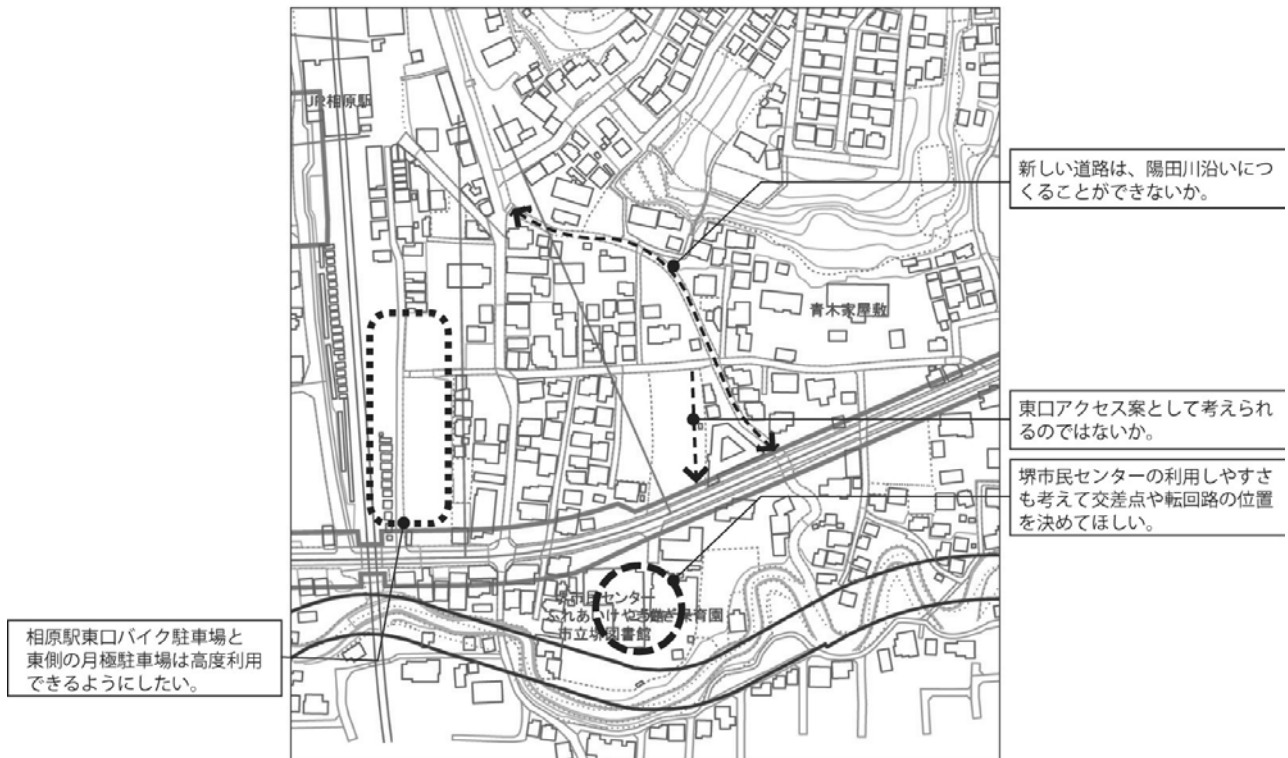
○東口周辺の街づくりについて

- ・これを機会に東口の街づくりをしっかりと行ったほうが良い。
- ・本来は地区内の道路をつくってから町田街道を立体化すべきだった。
- ・町田街道の道路整備に反対はしないが、不便になるのが心配である。
- ・相原駅周辺の資産価値が下がっている。
- ・相原駅周辺の活性化には働く場が必要であり、そのためにはホール等大きな公共公益施設が必要である。
- ・東口地区の整備手法としては土地区画整理事業が良い。

○町田街道立体交差化事業について

- ・道路整備で敷地が買収される。坪数が減っても建替えが可能か。
- ・用地買収されると敷地が小さくなる。

〈グループ2の主なご意見〉



（上記以外の主なご意見）

○東口アクセス路の必要性について

- ・町田街道立体化などの事情でまちが不便になる。使いにくくならないように考えてほしい。

○東口アクセス路のルートについて

- ・新しい道路のルートは道路幅員によっては、沿道地権者の同意が得られるかが問題。
- ・新しい道路の線形は直線よりもクランクしていたほうが、自動車のスピードが抑えられるので住民にとって利用しやすい。

○東口アクセス路の幅員について

- ・駅から町田街道まで大型車が通行できる幅員が望ましい。

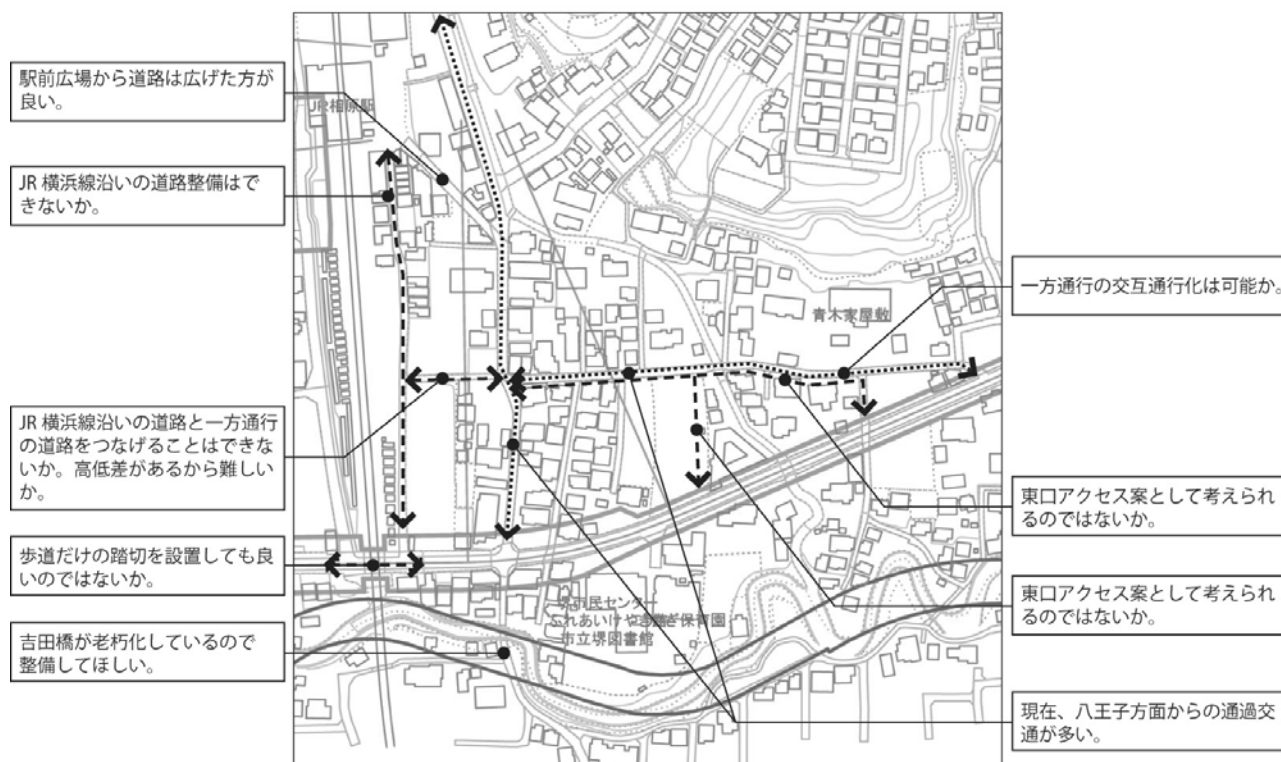
○東口周辺の街づくりについて

- ・土地区画整理事業や再開発事業など事業手法を決めて住民に示すべき。
- ・事業手法は街をどのようにするか決めてから決めるべき。

○公園整備について

- ・公園は必要だが、適地がない。

〈グループ3の主なご意見〉



（上記以外の主なご意見）

○東口アクセス路の必要性について

- ・ 駅へのアクセス路として最低限の道路をつくるべき。
- ・ 街づくりによって人口が増加することが考えられるならば、それに見合う道路を整備すべきではないか。

○東口アクセス路のルートについて

- ・ 陽田川上を町田街道から駅に向かう一方通行にしてはどうか。東西の一方通行とネットワーク化すれば、道路は最小限の拡幅で済む。
- ・ 陽田川をふさぐのは景観の面で問題ないか。
- ・ 陽田川にはカワセミがいるので、完全にふさぐのはどうか。

○東口アクセス路の幅員について

- ・ 車道と歩道を分離する必要がある。
- ・ 幅員9m位の道路で良いのではないか。
- ・ 車いすがすれ違えることができる歩道幅員にしてほしい。
- ・ 自転車専用レーンを設置してはどうか。道路を色分けすれば安全性を確保できるのではないか。

○自動車のスピード抑制について

- ・ 直線よりもクランクしていたほうが、自動車のスピードが抑えられるので住民にとって利用しやすい。

○東口アクセス路に関する合意形成について

- ・道路幅員によっては、沿道地権者の同意が得られるかが問題。
- ・一方通行道路の東西道路の用地買収は難しいのではないかと。

○東口の土地利用について

- ・商業については、西口で確保できればよいのではないかと。

○東口周辺の街づくりについて

- ・今のままで住み良いなら、そのままでも良いと思う。

○西口周辺の街づくりについて

- ・町田街道立体化後もいなげやには残ってほしい。

4. 次回日程等のお知らせ

第3回検討会は、2014年2月26日（水）19時00分から堺市民センター・ホールにて開催を予定しています。